

「食品に関するリスクコミュニケーション（東京） - O I E の役割と B S E の国際基準 - 」
意見交換会の概要

- 1 . 開催日時： 平成17年3月10日（木）15：00～17：00
- 2 . 開催場所： 星陵会館（千代田区永田町）
- 3 . 出席者：（国際獣疫事務局）ヴァラ事務局長、藤田アジア太平洋地域代表ほか
（食品安全委員会）寺田委員長、寺尾委員、見上委員、小泉委員、
坂本委員、本間委員、小野寺専門委員（プリオン専門調査会）齊藤事務局長ほか
（厚生労働省）松本参事官ほか
（農林水産省）高橋審議官、伊地知参事官ほか
（報道関係者）NHK、テレビ東京、朝日、読売、毎日、東京、共同、
時事、ロイター、日本農業新聞ほか
（応募による参加者）約130名
- 4 . 議事の概要：
 - (1) 冒頭、寺田委員長より挨拶、引き続き藤田アジア太平洋地域代表より、導入と紹介（O I E の組織やアジア太平洋地域での活動など）
 - (2) 続いてヴァラO I E 事務局長より、「O I E の役割とB S E の国際基準」と題して講演。
 - (3) 休憩の後、会場との意見交換（約35分間）。主な発言は以下のとおり。（ ）内はヴァラ事務局長の応答

B S E よりもサルモネラやリステリアの方がヒトの健康への影響は大きいとの話だったが、牛肉の貿易交渉を行う際、B S E と同等にこれらについても考慮すべきと言うことか。

（食品の国際衛生基準はコーデックス委員会で議論されている。輸入国は、輸出国がこの基準に適應しているかどうかをチェックする権利がある。）

B S E は公衆衛生上の問題としてはマイナーというが、我が国では輸血など対応できていない部分があり大きな問題と考える。O I E は米国にB S E 対策の改善を勧告して欲しい。B S E コードのカテゴリーを変更するのなら、ごまかしや隠蔽に関するコードも作って欲しい。

(OIEの役割はどの加盟国にも適用できる基準を採択し、受け入れてもらうことにある。ある国の牛肉を輸出するなどとは言えない。ただし、紛争が生じた場合に要望があれば仲裁に入ることができることとなっている。)

OIEの科学者は、すべての牛の検査をする必要はないと考えているようだが、日本は全頭検査を行っている。おかしいと思わないか。(OIEは中立な機関であり、日本が正しいとか米国が正しいとかをいう立場にはない。ただし、すべての加盟国には基準を守ってもらう必要がある。)

新たなBSEコードの案では、SRMについて腸の取り扱いはどのようになっているか。(現行では腸はすべてSRMだが、改正案では、回腸遠位部という案になっている。)

我が国では、全頭検査で2頭の若齢牛が見つかった。15頭の陽性牛のうち2頭と高い確率である。これについてどう考えるか。

(興味深い問題であり、要検討であると思うが、世界中でいろいろな検査法により20万頭のBSE牛が見つかりながら2例だけでは原則を変えるわけにはいかない。このサンプルに感染性があるかどうか最大の関心事項である。丁度、来週に若齢牛についても議論する会議を開くことになっている。)

OIE基準以上の安全な基準を設けることについてどう考えるか。

(WTOのSPS協定に則って、上乘せ基準が必要と考える国はその根拠を科学的に説明し、相手に納得させなくてはならない。OIE基準は科学的によく検討された後にできるので、それ以上の基準を科学的に説明することは容易ではないと思うが、可能性がないわけではない。)

新しい検査法が開発されれば、OIEの検査に関する考え方も変わるのか。

(迅速で正確な検査はどの国も求めている。今後の研究開発に注目している。)

(4) 最後に寺尾委員長代理より閉会挨拶。

以上